

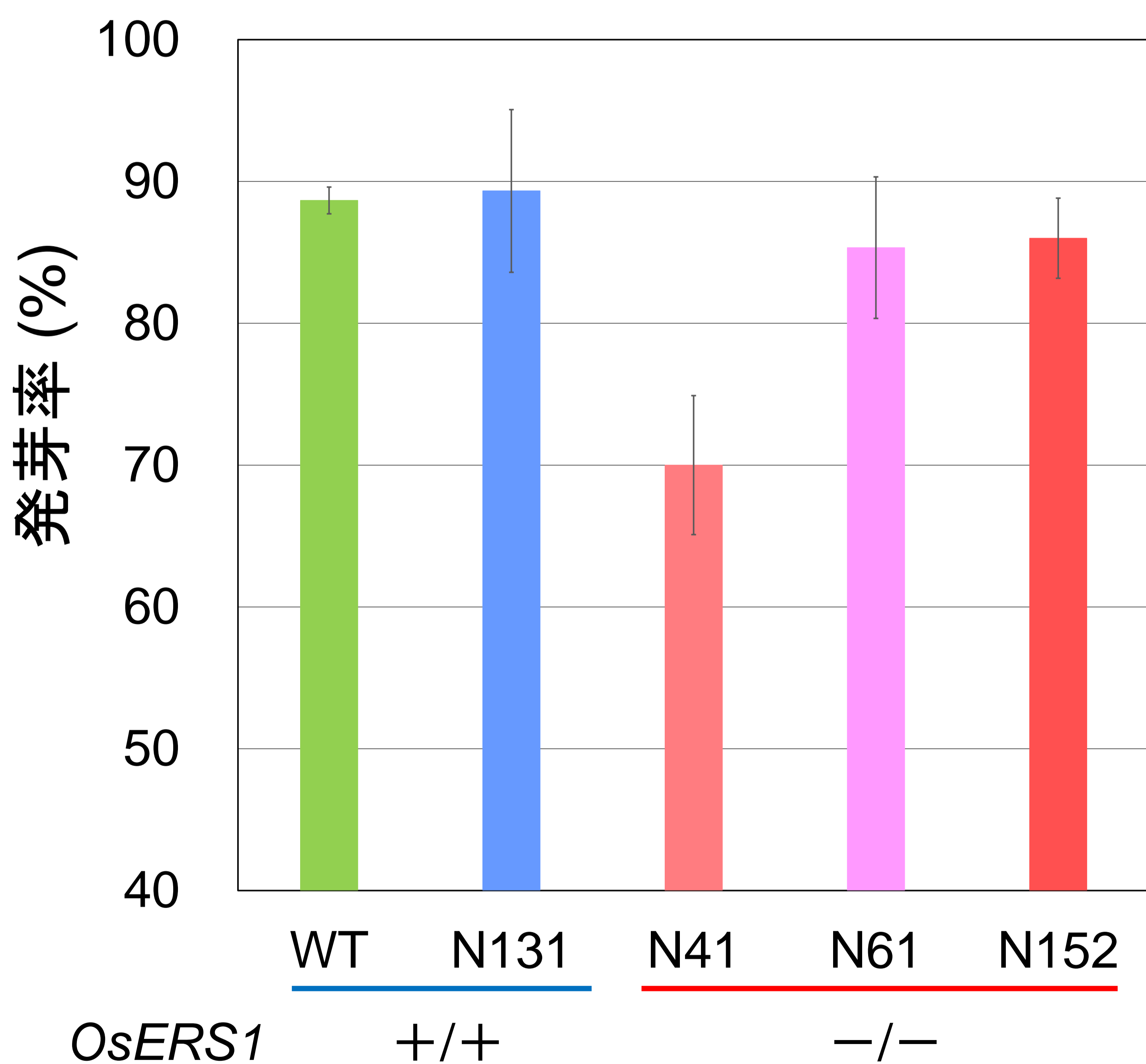
# 種子の休眠性が上昇した変異体イネの解析

種子の休眠・発芽は、穀類の穂発芽性、斉一な発芽や初期生長に関わることから、農業上重要な問題です。今回ゲノム編集によって作出した変異体イネの中から、強い種子休眠を示す系統が得られました。



植物の種子は完熟直後は休眠していますが、その後休眠が解除され、発芽できる状態となります。

## ゲノム編集イネの休眠種子発芽試験



エチレン受容体OsERS1の遺伝子をゲノム編集により破壊した変異体イネを作出しました。

ゲノム編集イネの収穫直後の種子を用いて休眠性を調べた結果、強い種子休眠を示す系統が見つかりました。この系統は休眠性の新規変異体であると考えられます。

今後この系統を解析することで、種子休眠の仕組みが明らかになると期待されます。現在イネでは一部の酒米品種で穂発芽が問題となっています。本研究の成果は、酒米の休眠性、穂発芽耐性を向上させるための基礎的知見として活用します。